

# 第2回健康ウォーク

主催 中鴻池リージョンセンター企画運営委員会  
東大阪市中保健センター

## コースのあらまし

中鴻池リージョンセンターの北側の「四季彩々とおり」のふれあいエリアから浄化施設エリアを散策、(株)日阪製作所につきま。ここで会社見学をし宇波神社へ。いったん加納西公園で昼食をとり、河内街道をおかげ燈籠の前を通過し加納と吉原の分岐点にある「道標」を目印に栗原神社につきま。古箕輪神社から吉原の村の中に入り吉原の石地蔵のお顔を見て諏訪神社を経て、「角田おかげ燈籠とおり」を少し歩きD地域に入ります。仲村神社の前を歩き、東大阪市の防災学習センターで防災知識の学習、地震の揺れの体験し近鉄若江岩田駅で解散します。



### (株)日阪製作所

プレート式熱交換器、調理殺菌装置、医療用滅菌装置染色仕上げ機、ボールバルブの専門メーカー。レトルト殺菌装置では国内シェア70%を占める資本金41億5千万円 東京証券取引所一部上場企業。



### 古箕輪八幡宮 古箕輪1-19-15



古箕輪は大和川付け替え以前、新開池という池に面した漁村であった。境内におかげ燈籠、拝殿に「元寇」などの明細な絵馬がかかっています。覆屋内にある一間社流造柿葺きの本田は江戸中期の建物です。

### 角田神社

昭和29年、仲村神社のお旅所であった場所に石切剣神社、仲村神社、日吉神社より饒速日尊・可美真手命、己己都牟須比命、大山咋大神を祭神としてまつたのが始まりです。現在は、元の場所より少し南にありもお旅所にあった2基の燈籠があります。



### 仲村神社 菱江2-2-50

ここ仲村神社は、古くて伝統のある神社ですが、謎の「朱塗りの鳥居」があることで有名。実は式内社仲村神社で、元々中村神社であった。現在の祭神は己々都牟須比命で、境内の手水鉢の銘文から、江戸時代には「仲村宮」と呼ばれていたことが分かっている。



仲村宮は旧菱江村の鎮守さんであるとともに「疱瘡の神様」として村人をはじめ近在の人から篤い信仰を集めていた。拝殿前の石段の亀腹部が移築されており、そこには、宝暦十年(1760)に淡路島在の阿波藩主蜂須賀家の家臣、陶山興一左衛門が病気の平癒を祈願した後、めでたく完治したことを感謝し謝恩を込めて社殿と朱塗りの鳥居(元文三年、1739)を寄進したことが刻まれている。よって、この朱塗りの鳥居は淡路島の方に向この鳥居からは仲村神社の病魔退散、家内安全に靈験あらたか、当時は大変賑わっていたことが想像される。また、大坂の庶民のために「伝染病が広がらないよう」と祈願と謝恩を込めた大阪城代、掘田正順寄進の石灯籠一対が現存しています。

### 吉原石造地蔵菩薩立像(府有形文化財)吉原1-2-28



### 東大阪市消防局防災学習センター



災害時の準備や心構えが。あなたの命を守ります。避難方法、消火器の使い方。応急処置方法、家族や近隣の人との助け合いなどこのセンターでさまざま防災知識を学習し、災害に対する日頃の準備と心構えを身につけましょう。

### 宇波神社 加納2-19-26

宇波神社は宇波口にあり、「延喜式神名帳」にのせられている古社で、祭神は、埴安姫命(はにやすひめみこと・土の神様)で、別名熊野と称されている。社名の起源も含め、古代より中世には、加納の地が周辺の湖沼地帯にはり出し、いち早く漁業、農業、水上交通の要所として繁栄してきた。現在は水分神社(みくまり)と吉野神社を合祀している。おかげ燈籠は江戸時代に盛んに行われた伊勢神宮参宮の記念物でほぼ60年毎に遷宮が行われる年の参宮は『おかげ年』といわれ平年より一層の御利益があると言われていたことから慶安3年(1650年)、宝永2年(1705年)、享保3年(1718年)、享保8年(1723年)、明和3年(1771年)、文政13年(1830年)と計6回にわたり各地で集団でのおかげ参りが行われた。文政13年庚寅の年号のある加納の燈籠は、おかげ参りに参加した加納の人たちが、記念の常夜灯として立てたものです。祭には、この地域の伝統的信仰行事として伝わっている獅子舞が五穀豊穡・課内安全を願って各戸を回っていました。天狗つりという踊りなど十数種類の踊りを伝えていました。



おかげ燈籠

### 加納の道標 加納2-3-1

河内街道を北へ進み、北宮小学校を越えて吉原と加納の分岐点に道しるべがあります。道しるべの高さは1.9m、で明治12年に建てられました。台石に「先達 大字」とあり、世話人として8人の名前が刻まれています。南面には「大峯三十三度 右 生駒山道」とあり、大峯山参拜のために世話人が建立し



### 栗原神社

### 吉原2-10-33



栗原神社はもと梶原宮の称されて地域の氏神として崇敬されてきました。祭神は中臣雷大臣命でこの地は古くは中臣系栗原連、栗原勝(天兒屋根命十一世孫、雷大臣之後)が居住していた歴史の古い地で